

産地生産基盤パワーアップ事業
都道府県事業実施状況報告書兼評価報告書（収益性向上対策）

都道府県名 島根県

産地パワーアップ計画
(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標																スマート農業推進枠	地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)		事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考							
					現状								目標									実績							導入・定着の取組の実施内容	事業実施前年度	目標年度	補正係数	価格補正後の実績		
					年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度	面積	生産量又は出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	年度		面積	生産量又は出荷量											価格(販売単価)	生産コスト
飯南町地域農業再生協議会	1	飯南町(トマト、パプリカ)	トマト、パプリカ	施設野菜(トマト、パプリカ)の規模拡大に必要なパイプ、被覆資材等を整備することによる産地化の取組	販売額の10%以上の増加	H27	18,625,543円	パプリカ0.6ha	トマト34,800kg	トマト292円/kg	パプリカ12,900kg	パプリカ656円/kg	R2	41,806,000円	パプリカ1.1ha	トマト94,000kg	トマト287円/kg	パプリカ22,000kg	パプリカ674円/kg	R2	37,073,224円	パプリカ1.0ha	トマト50,055kg	トマト373円/kg	パプリカ23,755kg	パプリカ775円/kg	トマト320円/kg	トマト291円/kg	トマト1,100円/kg	39,179,401円	88.6	目標達成に向けて地域関係機関とも連携した取組を行ったが、トマトについては、新型コロナウイルスの影響による販売等の低迷を見据え、1農家が2年度の栽培を断念し約0.2haの生産がなされず、また、高齢化に伴うトマトの生産の縮小など、人的な生産量の低下がみられた。さらに、市場における供給過多に伴う販売単価の低迷及び長雨を原因とする裂果に伴う生産量の低下もみられた。 一方、パプリカについては、販売単価及び生産量ともに堅調に推移している。 また、トマト・パプリカでの新規就農者が増加しており、生産者の営業意欲は盛んなため、面積は堅調に推移している。 成果目標は未達成であったが、R3年度には、上記のトマト農家も栽培を再開する見込みであり、新規就農者の更なる増加も見込めることから、地域の関係機関が連携した営業指導の更なる推進を図ることにより、R3年度には目標を達成する見込みである。	ハウスの整備による面積拡大と生産量の向上に取り組んだ結果、パプリカは、生産数量、販売額とも目標を上回った。トマトについては、R2年度産において1生産者の栽培断念に加え、長雨による裂果発生により生産量が減少し、目標である販売額の増加達成率は88.6%と未達となった。 今後は、R2年度産栽培を断念した農家も栽培を再開する見込みであり、さらなる作付推進を図り、あわせて課題解決のための技術指導を行うことで、目標を達成する見込み。		
益田市農業再生協議会	2	美都・山折(いちご)	いちご	いちご産地の形成の推進 規模拡大に必要なパイプハウス資材の導入 光線透過率の高い被覆資材の導入	販売金額の10%以上の増加	H28	1,990千円/10a	122a	19,236kg	1,262円/kg	R2	2,329千円/10a	186a	35,628kg	1,216円/kg	R2	2,383千円/10a	186a	25,931kg	1,709円/kg	1,200円/kg	1,298円/kg	0.924	2,202千円/10a	62.5	栽培環境の整備により、品質向上が図られ秀品率が上がったことで、単価が向上し、販売額が大幅に伸びた。しかし、令和2年度出荷については、病気の発生等が原因で、出荷量が伸び悩み、収量が低下し、目標達成には至らなかった。 しかし、コロナ禍による社会情勢が不安定な状況において、美都いちごづくり組合として高単価での取引により一定の販売額を得られたことは、産地としての生産力と販売力の向上が図られたと評価できる。引き続き、関係機関と連携して指導・支援に努め、特に生産面においては病害防除対策の指導を強化し、反収の向上を図る。	令和2年度産は病気の発生により収量が低下したため目標を達成できなかった。しかし、面積拡大は計画通り実施できており、反あたり販売額は目標を上回るなど産地の生産力向上が図られている。 このため、今後、関係機関と連携し、病害対策など、引き続き、生産力向上に努めることで早期に目標を達成するよう指導する。								
大田市農業再生協議会	1	大田市(ぶどう)	果樹(ぶどう)	施設ぶどうの産地形成の推進 ①新たなハウスの増設により、通常の生産規模拡大を目指す。 ②高単価・有利販売につながるよう、県内外の市場動向、学校給食への供給等を踏まえ計画的な生産・出荷を行う。 ③ハウスの高度化整備により、高品質化や収量向上を図る。	販売額の10%以上の増加	H28	28,729千円	4.5ha	23.8t	1,208円/kg	R2	32,331千円	4.9ha	26.8t	1,207円/kg	R2	42,012千円	4.9ha	24.6t	1,706円/kg	1,203円/kg	1,484円/kg	0.810	34,030千円	147.1	品質向上や改植・新植園の成園化により、販売額の目標を達成した。しかし、出荷量は、品種更新中の未成園があるため目標を下回った。 今後は、ハウスの補強や改植時の早期成園化に関係者一体となって取り組み、栽培面積・生産量の維持、拡大を図っていく。	本事業の効果により目標を達成することができた。 引き続き、実績販売額が維持できるよう関係機関と連携して取組主体を指導する。								
浜田市農業再生協議会	3	浜田市(トマト)	施設野菜(トマト)	施設野菜産地の形成推進 高度な環境制御施設の導入による周年・計画生産の取組	販売額の10%以上の増加	H28	4,689千円/10a	0.0ha	17.0t/10a	276円/kg	R2	7,076千円/10a	2.6ha	17.7t/10a	400円/kg	R2	3,047千円/10a	2.6ha	9.7t/10a	314円/kg	334円/kg	341円/kg	0.979	2,981千円/10a	-71.5	夏場の猛暑により定植後の苗の生育に影響があり、秋以降の収穫量の増加につながらなかったと恐われる。また、昨年、井戸水から上水道へ変更したものの、これまでのマンガン等が結晶化・蓄積したものが、培地に残留していると思われ、排水不良が全て改善されず、結果として、収量や販売額が予定より下回った。更に、新型コロナウイルス感染症の影響により飲食店の需要が大幅に減少し供給過剰状態となったため、販売単価も下落し、目標達成には至らなかった。 今後は、培地への堆積も改善してきていることや、これまでの3期作で様々な気象条件下で栽培を経験し、それにより習得した技術を活かすことにより計画の達成は期待できると考えている。	栽培面積の拡大及び、生産資材の導入により、生産量及び販売単価の向上に取り組んだものの、使用する水の影響等で、目標である販売額の増加達成率は-71.5%となった。 収量減の原因となった水質の改善を行ったことで、少しずつ栽培環境が改善されたとともに、引き続き、関係機関と連携し、改善に向けて指導することにより、目標達成が見込める。								
出雲市農業再生協議会	5	出雲市(パプリカ、メロン、リーフレタス)	施設野菜(きゅうり、パプリカ、メロン、リーフレタス)	施設野菜産地の形成の促進 ①高度環境制御施設施設の整備により気象リスクを低減し、数値化したシステム環境下(水耕栽培)で高品質安定生産 ②周年安定生産により業者等消費者の信頼を積み上げ、契約取引の確立 ③輸出対応施設施設の整備による安定した出荷量の確保、生産物の品質に対する安心・安全などの付加価値の向上、予約による品質保持や検査品の拡大、PB商品の開発、集出荷作業の効率化 ④生産工程管理(JGAP・美味しんぼ認証)の取組み ⑤安定所得確保のための複合経営の実践	販売額の10%以上の増加	H28	2,186千円/10a	4.8ha	308,353kg	339円/kg	R2	5,440千円/10a	5.5ha	471,514kg	632円/kg	R2	5,125千円/10a	4.5ha	483,711kg	482円/kg	①きゅうり 237 ②メロン 503 ③パプリカ 602	①きゅうり 283 ②メロン 574 ③パプリカ 560	④パプリカ 1,075	4,880千円/10a	82.7	きゅうり及びパプリカについては作付面積は計画どおり堅調に拡大しているが、高度な技術を要するメロン栽培においては、新規栽培者が取り組みにくく栽培に留まっている。今後、講習会等を活用して新規栽培者の獲得、及び栽培技術向上を図っていく。 リーフレタスは栽培2年目であり、初年度の課題であった高温期の栽培管理の改善を果たせたことから、規格率が上がり、結果として、出荷量増加や単価向上で販売額も30%上昇した。しかし、販売面において、新型コロナウイルス感染症拡大による業務需要の低迷等により、販売単価目標単価を大きく下回ったことにより目標は未達となった。 今後は、新型コロナウイルスの影響という不透明性があるが、経験値を高め秀品率の向上を図ることにより、全国市場における販売額の増加が期待できると、目標達成に向けて、関係機関が一体となって支援を行っていく。	きゅうり、パプリカについては面積拡大が図られており、達成率は72.7%となった。ただ、メロンは新規取組が難しく、今後、新規栽培者の確保を行う。 リーフレタスについては、環境制御の改善等により規格率の向上が図られており、引き続き関係機関が一体となった技術指導により、秀品率の向上を図ることで、目標達成が見込める。								